



橋詰光子さん  
どこでもロダン訪問理美容サービス代表。自身の経験から、子育て中のママを支援するために訪問カットなどの活動を精力的に行っている。

# リレートーク 275

## 一人じゃないよ！地域で子育てを共有できる場をつくりたい

Q 活動を始めようと思ったきっかけは何ですか。

子育ては、環境の変化や精神的負担が大きく、私も慣れない生活に家に閉じこもりがちになったことがありました。母として新しい社会に少しずつ慣れていく中で、自分と同じように子育てに奮闘するママたちから、自宅で髪を切って欲しいと頼まれ、友達の家を借りて「青空美容室」を始めたことがきっかけになりました。子ども連れでの外出が大変なママたちを支援したいという思いから、産前産後ママヘルパーという資格を取得し、三年前にママのための訪問カットを本格的に始めました。

Q どんな活動をしていますか。

高齢の方などの訪問カットをしてきたスキルを生かし、障がいのある



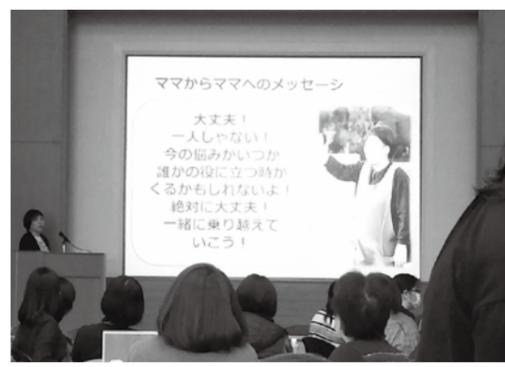
移動式店舗の中でリラックスしながらカットを受ける親子

子どもを子育てしているママや実家が遠く両親を頼れないママなどの訪問カットのほか、悩みや困り事を聞きながら家事や育児のサポートも行うようになりました。

また、地域にどんな子育てサポート事業があるのかを調べ、困っている方が必要とする支援を受けられるような情報提供も行っています。産後は孤独になりがちで、誰かに頼りたくても頼れない人もいます。ママが「地域にはたくさんさんの先輩ママがいるから大丈夫、一人じゃないよ」と伝えていきます。

Q 今後の抱負をお願いします。

訪問カットがもっと地域に定着し、身近な存在になるよう、同じ思いを持つ仲間を増やして、活動の幅を広げていきたいです。また、その仲間



ママの笑顔があふれるコミュニティづくりのため講演会で活動を紹介する橋詰さん

と団体を立ち上げ、誰でもどこでも訪問カットを行えるような移動式シェアサロンを運営できたらいいなと考えています。

今後、新型コロナウイルスの影響が長期化すれば、新しい視点での子育て支援が求められてくると思います。地域がもっと子育てなどに関わり、つながることで見えてくる問題や課題があります。直接会えなくても、オンラインやリモートで相談会などを開催し、子育ての悩みや不安喜びをもっと気軽に共有できる場を増やし、地域のみんで支え合う社会や訪問型支援の仕組みを作りたいです。また、子育ての苦労の中にも、誰かの心遣いで笑顔になれる瞬間が生まれるような活動を、試行錯誤しながら続けていきたいです。

### 絵はがきの 中の 「いわき」

コレクションとして保存 (最盛期①)

大正から昭和へ時代が移行するにつれて、絵はがきの効用が広く認識されるようになります。写真はフィルムや印刷紙が高価であり、新聞の写真も不鮮明であったことから、絵はがきは唯一、安価で入手しやすい画像媒体だったのです。



色調を変えて何度も発行された人気の彩色絵はがき「三色版絵はがき・磐城海岸之名勝(新舞子のマツ林と横川)」[昭和時代初期 佐々木商店発行]

明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されてきました。絵はがきに残る当時の風景などを通して、いわきの歴史や文化をひもときます。

は多様化していきます。はがきは性質上、時候のあいさつや旅先からの連絡、年賀状として使用されるなど、本来は誰かに差し出し、誰かが受け取るという機能を果たすのが目的であり、それは絵はがきにおいても同様でした。しかし、そのうち、美人写真や風光明媚な風景などの「絵はがきが持つ美しさ」や、在りし日の都市の全景や建物の独自性などの「地域固有の魅力」、商取引上の「希少価値」などを備えるようになります。また、当時の絵はがきは後年のカラー印刷とは異なり、発売元の業者の自由裁量で着色されていたため、保存性も担保するようになり、はがき本来の目的である双方向の機能から逸脱していきます。つまり、保存や観賞、あるいは、その類似の用途として機能する方向へ傾斜してきます。

そのような状況下で、はがきは本来の用途では使われず、場合によっては「積極的に」双方向の機能を果たさずに、個人のコレクションとしてひそかに保存されていきました。(いわき地域学會 小宅幸一)

### こんにちは市長室から 55



#### 新型コロナに負けない！ 「三方良し」

いわき市長 清水敏男

新型コロナウイルス感染症の影響は、地域経済にも暗い影を落としており、市内事業者の皆さんが今も厳しい状況が続いている中、市では独自の緊急経済対策を講じております。第一弾では、国が無担保・無利子の融資制度を創設するのに合わせ、県の融資制度に市が信用保証料と利子分を補助することで、市内の取引銀行において、国と同等の融資が受けられるようになりました。

第二弾では「店舗等維持支援金」を創設し、市が事業者に対し店舗などの家賃の一部を補助することで、テナントが維持され、店舗などのオーナーや地域にとっても「三方良し」となる仕組みを構築しました。また、飲食店などとタクシー業界がコラボレーションし、テイクアウトの料理をタクシーで配送する取り組みを後押しする「いわきグルメ・デリバリー支援」も実施しています。

第三弾では、新型コロナの第2・第3波に備え、万一のときにもクラスターを発生させず経済を回していく仕組みとして「QRコードを活用したシステム」を導入します。同システムを普及・利活用いただくため、市民の皆さんにクーポンを発行し、経済対策も同時に実施してまいりますのでご期待ください。